

議事録

会議名	令和4年度第1回加古川市スマートシティ推進協議会
実施日時	令和4年9月27日(火) 15:00~16:30
実施場所	オンライン
出席者	【加古川市スマートシティ推進協議会】 高野委員長 福田副委員長 破魔委員 高橋委員 野方委員 西尾アドバイザー 川向アドバイザー 中田アドバイザー 【兵庫県】 情報政策課 1名 【事務局】 政策企画課 3名

会議の内容
司 会：事務局 配付資料： 別添1「次第」 別添2「加古川市スマートシティ推進協議会名簿」 別添3「配付資料1：情報通信技術基盤等の利活用に関する推進方針 指標一覧表」 別添4「配付資料2：兵庫県スマートシティモデル事業について」 別添5「配付資料3：加古川市版 Decidim の活用について」 別添6「情報通信技術基盤等の利活用に関する推進方針」
<u>1 はじめに</u>
<u>2 議事(1) 情報通信技術基盤等の利活用に関する推進方針の進捗について</u> ・事務局より、推進方針概要とKPI達成状況について報告 (意見交換) アドバイザー： 指標14(Decidimの登録者数)、指標15(Decidimの意見投稿件数)も重要であるが、現在のアクティブユーザの実態把握も重要。アクティブユーザは何人か。 事務局：アクティブユーザは現在100名程度。投稿等にインセンティブを付与する、魅力的な意見募集のテーマを掲示するなどアクティブユーザを増やすための工夫が必要であると認識している。大学のゼミや高校の授業において、Decidimの非公開スペースを活用いただいております、それらの非公開スペースのユーザが公開スペースにもコメントできるような工夫が必要だと考えている。 アドバイザー： ユーザ登録者数を考慮すると100名のアクティブユーザ数は多いと感じる。KPIの設計を見直してはどうか。

また、多くの方が興味を持てるモデレーションの設計が必要である。

委員 : ユーザ登録者の市内と市外の在住者の内訳・比率はどうか。市内在住者の方が意見を出しやすいのではないか。

事務局 : 導入初年度の比率は、市内と市外の在住者の割合は概ね半々であった。匿名性があるシステムであるため、ユーザの住所情報は確認していない。
市外在住者でも加古川市に通勤、通学している人もいるため、一概に市内在住者の方が意見を出しやすいとはいえないと考えている。

3 議事(2) 兵庫県スマートシティモデル事業への採択について

- ・兵庫県情報政策課より、兵庫県スマートシティモデル事業の概要等について説明
- ・財政支援ではなく、技術支援をモデル地区に対して実施する。
- ・モデル地区におけるスマートシティの取組を県下の自治体に横展開し、広域連携を推進する予定。
- ・スマートシティの取組を積極的に実施する自治体をモデル地区に採択した。

(意見交換)

委員 : 加古川市は具体的にどのような取組を進めていくのか。

事務局 : 「次世代見守りサービスの展開」、「保育士等の働き方改革・業務負荷の改善、快適な保育環境の提供」、「3D都市モデルと人流センシングデータを活用した加古川駅前等の回遊状況検証」、「ワンコインセンサ実証の広域展開、データ連携基盤の広域連携実証」について、5つの取組を実施予定。

委員 : 加古川市のスマートシティの取組は着実に推進されている。ケーブルテレビ事業者でも平成16年ごろから加古川上流にカメラを設置し、2時間後の下流の水位状況等の予測等に利用してきた。3D都市モデルを加古川市は整備しているので、市民・事業者・行政が協力しながら整備・利活用を推進すべきだと考える。

アドバイザー :

3D都市モデルは可能性のあるシステムであり、加古川市は兵庫県下で唯一LOD2までの3Dデータを整備している。教育用や防災対策等に利用できるのではないかと期待している。数100mメッシュで気象観測データ(15項目ほど)を安価で取得できるようになってきているため、河川の水位状況等の把握が今後さらに正確にできるようになるのではないかと期待している。

兵庫県 : 加古川市以外の県下の自治体でも3D都市モデルの整備予定がある。兵庫県としても国土交通省の3D都市モデルの分科会に参加しユースケースの事例収集を行っている。県内市町にも情報提供していきたい。

アドバイザー :

島根県雲南市では市が設置した河川カメラの映像をケーブルテレビで公開している。公開フロー等は参考になるのではないかと期待している。

アドバイザー :

気象観測データを用いて予報することは法令に抵触する可能性があるが、利活用については規制されていないと認識している。ドローンの墜落する原因の多くは天候によるものであるため、ドローンの運用にあたっては、3D

都市モデルと気象観測データは利用できるのではないかと考えている。

4 議事(3) 加古川市版 Decidim の活用について

- ・事務局より、加古川市版 Decidim について説明。

(意見交換)

委員 : Decidim で意見募集している内容の選定基準を教えてください。また、市民から意見募集のテーマを提案することは可能か。

事務局 : 政策企画課から担当課に意見募集を働きかける場合もあれば、担当課から意見募集をしたいと依頼がある場合もある。市民が意見募集ページを作成することは技術的には可能。導入するかどうかは引き続き検討する。

現在、意見募集中の「スマートシティ構想の実施状況」では、幅広く市民の方が意見できる構成としているため、本構想に関連する意見やまちづくりに対するアイデアについては投稿していただけると考えている。

委員 : Decidim のページを作成しているのは政策企画課か。また、Decidim の認知度はそこまで高くないように思うが、今後どのように普及させていくのか。

事務局 : Decidim のページは、政策企画課で作成し、担当課とともに検討している。普及にあたっては、市民にわかりやすく、興味を持てるテーマで意見募集する必要があると考えている。

アドバイザー :

Decidim をはじめとした新しいシステムについては、使っていくうちに慣れるものと考えている。システムに慣れた人はコメントや意見を出しやすくなる半面、慣れていない人はコメントや意見を投稿することに躊躇してしまう。これらのことが特定の人の投稿件数が多いという状況を生んでいるのではないか。

一度、市民にとってコメントがしやすいシステムになっているのかどうか、投稿方法やページの構成など振り返りを行うことも重要である。

5 閉会

- ・事務局より、スマートシティ推進事業の進捗状況や社会情勢等の変化により本協議会のあり方や所掌事務等の見直しを検討していることを説明。
- ・次回の開催は未定。